

昭和三十六年一月十五日 卒業生予餞会

〔講演感想記〕

「予餞会祝辞」

塾理事 原安三郎先生

原安三郎先生は日本化薬の社長として日本実業界の指導者であられると同時に、現代青年に対する深い愛情と充分なる理解は、教育界に於ても重要な立場にあられるのである。今日も塾の卒業生達のために御多忙の中を特に御出席下さって、親しく御自身の体験を述べて激励されたのである。

世の中にはいろいろの行き方がある。即ち自分の長所を生かして短所を全然顧みないやり方と、それとは逆に長所はそのままにして短所を何とか是正して進む行き方がある。先生は後者を選ばれたのであるが、その結果、最初骨も折れたが結果は決して悪くなかった。むしろ、好きこそもの上手なれと、専門的にやった人よりも、幅の広い仕事をやって行けたと思う。その何れを選ぶかの利害得失について、詳しく例を引いて語られたのである。

とかく好むところだけ行なうことは容易で、不得手なことは怠り勝ちであるから、ますます不得手になって終に出来なくなるものである。

しかし不得手なことでも努力次第では、ある程度克服することが出来て、それがその仕事に思わぬ効果を及ぼすものであると。

斯うした有益な体験談は、永い生涯のある卒業生諸君に充分役立つことであろう。

(塾理事 望月勲造)

※当DVD収録のご講演録には、現在では不適切と思われる表現が用いられている場合がございますが、講演時の時代背景等を尊重し、当時のままといたしました。